

# 食事をする空間と家族

村松 伸 東京大学 生産技術研究所 准教授

## [講演の概要]

みなさんは、どこで誰と日々、どんな食事をしていますか？2LDKのD（ダイニング）に設置された大きなテーブルで、「家族揃って仲むつまじく」、栄養たっぷりの食事を取っている、というのは幻想に近いことは、すでにみんなご存知のはずです。コンビニに弁当をひとり、パソコンの前で食べる、ファーストフードに依存する、電車の中で食べる、コンビニの外でヤンキー座りして、仲間とカップラーメンを取る。そこには、確かに疲弊した食事内容と食空間しかありません。それは、食事空間についてだけでないはず。寝室、ダイニング、子供部屋、死ぬ場所、とハレとケの日常生活と一生の生活の容器としての住まいが、都市へと染み出していくことが近代であり、住まいは機械と見なされました。そして、この近代的な住まい観の行き着いた先が現代なのだ、といま批判の矢面にさらされているわけです。でも、果たしてそうなのでしょうか。「家族揃って仲むつまじく」は、ある特殊な時期の特殊な食事形態でしかなかった、はず。変わることを恐れてはいけない、でも、同時に、ビジョンを持たなければならない、これが、私たちの「都市の持続性」チームが得たひとつの結論です。その結論から、食空間の未来を考えます。

## [プロフィール]

東京大学工学系大学院建築学専攻博士課程満期退学、工学博士。後、現職。専門は、都市・建築・空間史、都市環境文化資源保全学。

著書に、『上海一都市と建築』、『中華中毒』、『アジア建築研究』、『象を飼う』など。